

版を提示した Mansell Information Pub. Ltd を選んだ。協定に基づいて、Mansell社は出版にかかるすべての経費を負担する。またLCでの編集作業の費用を調達することも請負った。小委員会はその後ALAの代理人にたいし、双方に満足の行く契約を交渉するように要請し、交渉は1967年1月まとまった。ALAは同年2月この計画を発表し、その月末からLCは整理部にスタッフをおいて編集に乗りだした。その主任は、J.L. Dewton氏、次長はN. N. Mendeloff氏であった。NUCはLCの編集作業が進むに従って刊行される運びとなった。1967年3月、ALAはロンドン事務所助言者および編集責任者として、元ニューヨーク市総合神学校の主任カタローガー R. Eisenhart氏を任命した。同じ頃、編集集みの最初のカード27,000枚('Absyrtus'まで)がロンドンに届いた。各巻704

頁全巻約610冊の第一巻分であった。LCの167年の歴史上最も大規模な書誌計画であり、また印刷史上最も量の多い冊子目録となるこのNUC-Pre1956が端緒についたのだ。

追補

米国政府刊行物総合目録 *The National Union Catalog of U.S. Government Publications*. 4 vols., Carrollton Press, Inc., 1974 Jan. が今度始めて刊行されたという新しい情報を、この原稿がすでに我々の手を離れたあとと入手した。これは1973年11月現在で米国の1,122の図書館がどのような政府刊行物を所蔵しているかを示すものである。これにより、今までの目録では不備であった政府刊行物の所在をつきとめる新しいツールができたことになる。

(どい・としこ 一般参考課主査)
(えだまつ・さかえ 同 副主査)

レファレンス事例

夏目漱石の友人

佐藤友熊の経歴について (個人)

[回答]

佐藤友熊の名は夏目漱石の作品『滿韓とところどころ』にしばしば見えることは、すでにご承知かと思いますが、当館蔵書中の同作品本文、および『漱石全集』(岩波書店 昭和41—42)『夏目漱石全集』(筑摩書房 昭和46—48)『漱石文学全集』(集英社 昭和45—48)等に付載されている注解(または語注)のうちから、佐藤友熊の履歴事項を総合した結果、友熊は明治42年9月頃旅順で警視総長をしていたことが判

明いたしました。

そこで、この「旅順の警視総長」を手がかりに『職員録』を調査したところ、明治41年5月1日現在から大正6年5月1日現在までの各年の『職員録』のうち、関東都督府民政部警務課課長の欄に友熊の名が見当りました。もちろん警視総長の職名が付されています。ただ、就任・辞任の年月日までは、この『職員録』では不明でした。

また、この関東都督府の前後の経歴については、漱石の交友関係を詳細に調査、研究したものが見当らず、比較的新しい研究成果をとり入れているといわれる集英社版『漱石文学全集』掲載の友熊の注解にみえる<伝未詳>という記述(10巻582頁参照)に尽きるかと思われましたが、友熊が旧外地勤務の高層官であった点から、外務省史料館および総理府内閣総理大臣官房人事課

に照会いたしました。その結果、後者の総
理府に友熊の履歴書が残っており、関東都
督府のあとの履歴事項について、概略下掲
のような情報を得ました。

大正6年7月31日

官制改革に伴ない廃官*

大正8年12月20日

北海道札幌区長就任

大正11年7月31日限り区が廃止され(同
年8月1日市制施行)職が消失

*官制改革とは、当時の『職員録』
によれば「警視総長ハ民政部警務
課長ト為リ、上官ノ命ヲ承ケ警察
ニ関スル事務ヲ掌理ス」が「警視
総長ハ南滿洲駐劄憲兵ノ長タル陸
軍将校ヲ以テ之ニ充ツ都督ノ命ヲ
承ケ警務部ノ事務ヲ掌理ス」に
変わったことを示しているかと思わ
れます。

この情報に基づき、この札幌区長を歴任
したことは、大正9年7月1日現在から大
正10年7月1日現在の『職員録』でも確認
できました。また、前掲記事中の情報とは
別に、『札幌市史 政治・行政篇』(昭和
28)および『同概説年表』(昭和30)〈い
ずれも当館請求記号 211.4—Sa634—S〉のほ
か、『札幌百年の年譜』(昭和45)〈GC7—
33〉に友熊の名が散見しており、とくに前
掲の「政治・行政篇」186頁には、友熊の
札幌区長の就任・退任の年月日が見当りま

した。

〔制度〕北海道区制 〔職名〕札幌区長
〔管理区域〕札幌区 〔前職〕関東都督
府警視総長 〔氏名〕佐藤友熊 〔任期〕
大正8年12月20日就任・大正10年12月28
日退任 〔在任期間〕2年 〔転職先〕
病気退職

とにかく、友熊の履歴書の所在が確認で
きましたので、詳細は前掲の総理府内閣総
理大臣官房人事課人事記録係(東京都千代
田区1—6—1 TEL代03—581—2361)に
直接ご照会の上、確認していただきたく思
います。

また、大正10年12月の病気退職以後の動
静については、友熊の本籍地の然るべき機
関(例えば町村役場)にご照会になれば、
何等かの情報が得られるのではないかと
思われます。本籍地は総理府の人事記録係の
履歴書に記入なしのとの回答を得ております
ので、札幌区長時代の履歴書を札幌市役所
(札幌市中央区北一条西2丁目 TEL代
011—211—2111)あるいは、札幌市史編纂室
にご照会になり、調査されたいかがかと思
います。

ちなみに、漱石が『満韓とところどころ』
で友熊を薩州人と称しているとおおり、総理
府蔵履歴書には鹿児島県士族と記入がある
由です。

<参レ77号>

図録東寺百合文書 続図録東寺百合文書

京都府立総合資料館 大 2冊 昭和45
年12月・昭和49年1月

昭和42年東寺より京都府立総合資料館に
移管された文書の、昭和45年4、5月と49

年2月とに行なわれた展示会出陳の400余
点の文書の図録で、内容は図版、解説、釈
文よりなっている。当館には、白河本を架
蔵しているためばかりではなく、図書館の
出版事業としても、普及事業としても注目
されるものであろうかと思う。